

2018年5月20日(日)

主 題:「ひとつ所に集まる祝福」

—その中心は—

テキスト:使徒の働き2章1-13節

はじめに

- ・しばらく前のことですが、大阪の玄関口である梅田駅近くを歩行していた時のことでした。突然ですが、ドカーンと非常に大きな音がしました。私はすぐに「交通事故！」だと思いました。そこにいた通行人もきっと同じように、感じたことでしょう。
 - ・一斉に、その音がする方へ目を向けました。交通事故であったようでしたが、幸いにも大事故ではありませんでした。多くの人々が集まってきましたが、みんな胸をなでおろしました。普段は聞かないような大きな物音を突然に聞くと、私たちはびっくりし驚くものですね。
 - ・今から約2000年前、エルサレムの都でも大きな物音がしました。そして多くの人々が集まってきました。聖書は次のように記録しています。
- 使徒の働き**
- ・2:5 さて、エルサレムには、敬虔なユダヤ人たちが、天下のあらゆる国から来て住んでいたが、2:6 この物音が起こると、大ぜいの人々が集まって来た。彼らは、それぞれ自分の国のことばで弟子たちが話すのを聞いて、驚きあきれてしまった。
- ・これは神の御霊が、信じる人々の上に下った時の有様でした。これを聖霊降臨(ペンテコステ)と呼びます。聖書の歴史、また教会の歴史において、非常に重要な出来事です。なぜなら、この聖霊の出来事無くして新約の恵みの時代について、そして聖書について語ることはできないからです。
 - ・「聖霊降臨」、聖霊はよく油にたとえられますので、聖霊の油注ぎとも呼ばれます。今日はその「聖霊降臨」から、次の2点を考えてみたいと思います。

大切なポイント

1. 聖霊の油注ぎ

1)ペンテコステは聖書預言の成就

2:1「五旬節の日になって、みなが一つ所に集まっていた。」

- ・五旬節とは、ユダヤ人の三大祭(過越しの祭り、仮庵の祭り、五旬節)のひとつです。ペンテコステ(50の意味)は、「50日目の祭り」という意味で、過越しの祭りから7週間後(49日)に当たります。それは、小麦の収穫を感謝する日でもあります。聖書は次のように語っています。
- ・**レビ記23章**
23:15 あなたがたは、安息日の翌日から、すなわち奉献物の束を持って来た日から、満七週間が終わるまでを数える。
23:16 七回目の安息日の翌日まで五十日を数え、あなたがたは新しい穀物のささげ物を主にささげなければならない。⇒ ペンテコステ
- ・詩篇133篇には、次のように賛美されています。
133:1 見よ。兄弟たちが一つになって共に住むことは、なんというしあわせ、なんという楽しさであろう。
133:2 それは頭の上にそそがれたとうい油のようだ。それはひげに、アロンのひげに流

れてその衣のえりにまで流れしたたる。

133:3 それはまたシオンの山々におけるヘルモンの露にも似ている。主が そこにとこしえのいのちの祝福を命じられたからである。

・2:1「みなが一つ所に集まっていた。」

人々はユダヤ教の五旬節にあたり、各地から集まっていました。それは小麦の収穫を感謝する祭りであった。この「一つ所」とは、最後の晚餐の「屋上の間」か、あるいは神を拝する「神殿」(ルカ24:53)であったか、そのどちらかであったであろうと考えられています。

・いづれにせよ、彼らは心を一つにして祈っていたことは確かでした。

なぜならイエスは次のように言われたからでした。

1:4 彼らといっしょにいるとき、イエスは彼らにこう命じられた。

「エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。

そして、このイエスのことばを受けた聖徒たちは、次のようでした。

1:14 この人たちは、婦人たちやイエスの母マリヤ、およびイエスの兄弟たちとともに、みな心を合わせ、祈りに専念していた。

・このようにペンテコステは、旧約聖書が約束した神の霊の降臨でした。

そしてイエスも、御霊が下ると言われました。ヨハネ福音書 14 章

14:16 わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。

14:17 その方は、真理の御霊です。

・約束の神の御霊が下ったのが、ペンテコステでした。

2)ペンテコステの「しるし」

・ペンテコステには、次のような特徴がありました。

①「激しい風が吹いてくるような響き」(2節)

最初のしるしは、耳に聞こえるものでした。だれにでも分かるものでした。「風」は聖書で、よく聖霊の象徴として用いられています(エゼ37:9-14、ヨハネ3:8)。「天から」とありますから、このしるしは「天から到来したしるし」であったと分かります。

②「炎のような分かれた舌」(3節)

第二のしるしは、目で見ることができました。火、炎は聖書で聖霊を現す象徴です。また炎の現われは、きよさを示しているでしょう。バプテスマのヨハネは次のように述べました。マタイ福音書 3 章

3:11 私は、あなたがたが悔い改めるために、水のバプテスマを授けていますが、私のあとから来られる方は、私よりもさらに力のある方です。私はその方のはきものを脱がせてあげる値うちもありません。その方は、あなたがたに聖霊と火とのバプテスマをお授けになります。

これが聖霊のバプテスマです。

③「御霊が話させてくださるとおりに、他国のことばで話しました。」

(4節)。

第三のしるしは、自分たちが知らないことばで神のわざを語りだしたことでした。風が力を現し、炎がきよさを表すならば、第三のしるしは福音の普遍性を表すでしょう。

・なぜなら、福音は言葉、言語によって伝えられるからです。イエスは、神の福音はエルサレム、ユダヤというユダヤ人居住地域を越えて、異邦人の地サマリヤにまで届くと言われたからです。つまり、キリストの福音は全世界へ届くのです。これは神のマスタープランです。

・このように、聖霊降臨には三つのしるしがありました。それは、とても意義深いものです。そして神のご計画は、この聖霊によっていよいよ前進しました。それは神の主権です。

・ところで、ペンテコステをさらに観てみましょう。

3) ペンテコステの中心

- ・私たちはペンテコステをひとつの出来事として、しるしを見てきました。
もし仮に、私とその現場にいるとするならば、それらは腰を抜かしてしまうような出来事であったと思います。
- ・心は、驚き(驚異)を感じ ⇒大きく「感動」し ⇒そして畏敬心へと移行していきます。しかし、ここで見落としてならないことがあります。それは何がもっとも大切なことであるかです。「しるし」、「現象」、「出来事」は、みなすばらしいことです。しかしペンテコステの中心は、しるしにあるのではありません。そうではなく、「みなが聖霊に満たされた」という事実にあります。
- ・**聖霊に満たされるとは、どういうことでしょうか。**
それは、全く神の所有になるということです。また神がなんのさまたげもなく、その人を用いられるということです。
- ・初代教会の信者たちには、大きな責任と危険がありました。皆さん。考えてみてください。当時の信者たちは、特別な神学教育を受けていたわけではりませんでした。しかし彼らは、キリストの宣教命令に従い、前代未踏の地へ遣わされて行きました。それは神の働き以外、何もありませんでした。しかも彼らは、人々から歓迎を受けたのではありませんでした。いいえ、反対、嘲笑、迫害を受け、神が備えられた道を通らなければなりませんでした。
- ・皆さん。「聖霊に満たされる」とはどういうことでしょうか。
私たちは、感情の高まりや、超自然的出来事、病の癒し、あるいは不思議なわざが起こると、あるいはその事を起こす人は、真にすばらしい人で、「聖霊に満たされた人」と呼びます。それは素晴らしいことです。
- ・しかしながら、真に聖霊に満たされるとはどういうことでしょうか。
⇒ 全く神の所有になることです
神の所有となった結果、神の不思議が伴ってくるのです。
ペンテコステの中心は、しるしではありません(結果)。中心は神の霊に満たされることでした。
- ・神の霊に満たされることは、重要です。なぜならキリストの福音宣教、クリスチャン生活の原動力がそこにあるからです。使徒の働き2章で、聖霊に満たされた人々には特徴がありました。彼らは皆イエスの十字架、復活、昇天を信じた人々であったことでした。
 - ① 十字架の元で、罪を悔い改め、復活のキリストを信じました。
 - ② そして、主に身をゆだねる、お任せした人でした。
- ・このようにして下った聖霊は、どんな働きをしてくださるでしょうか。

2. 聖霊のお働き(みわざ)

1) 聖霊は多くの人々に関心を与えた

- ・当時のエルサレムには、他国から移住してきたユダヤ人が多くいました。
このペンテコステの祭りに参加するために来ていた、ユダヤ人や改宗者もいました。11節の改宗者とは、ユダヤ教の教えを受け入れて、その交わりに入った異邦人のことです。
- ・この時期は、毎年行われる宗教的な祭りの中で、一番参加しやすかったようでした。というのは、その時期が航海に最も安全であったからです。ですからペンテコステの時は、エルサレムの都は、人々で一杯となりピークに達していました。
- ・この祭り加わった人々は、当時のローマ帝国の各地から来ていました。
「**パルテヤ人、メジャ人、エラム人、メソポタミヤ人、**」はエルサレムの北東に住んでいた。「**ユダヤ人**」はすぐ身の回りの人々です。「**カパドキヤ、ポント、アジア、フルギヤ、パンフリヤ、**」は、小アジア(現在のトルコ)で北西にあたります。「**エジプト、クレネに近いリビヤ地方**」は南西の

北アフリカを指します。「ローマ人」は西の果て、「クレテ人」はローマの手前(東方)に住む人々、「アラビヤ人」はエルサレムの南または東に住んでいた人々でした。

- ・その当時のローマ帝国は、世界を支配していました。ここに挙げられた人々を見ると、世界のすみずみからの代表であることが分ります。ペンテコステの時に、イエス・キリストが救い主と分かり、回心した人々はそれぞれ祖国へ帰っていきました。そして、自分たちがエルサレムで経験したことを証したのでした。つまり、そのようにしてキリストの福音はこれらの国々に伝えられたのでした。すなわち教会誕生のその日に、世界宣教の準備ができていたのでした。

2). 聖霊はキリストを崇め、人々の注意を主に向けさせた。

- ・不思議な物音を聞いた多くの人々は集まり、弟子達の話すことに耳を傾けていました。すると、彼らはガリラヤ人であるのに、しかも自分たちの言語を知らないはずなのに、自分の国の言葉で語っていたのでした。いったい、これはどういうことか・・・？
- ・そこにいた人々が聞いた言葉は、「**神の大きなみわざ**」でした。
2:11 ユダヤ人もいれば改宗者もいる。またクレテ人とアラビヤ人なのに、あの人たちが、私たちのいろいろな国ことばで神の大きなみわざを語るのを聞こうとは。」
- ・聖書は、彼らがどんな内容の話をしたか記していません。しかし、この後のペテロの説教(スピーチ)から推測すると、主イエス・キリストのことであったことは間違いありません。それは多言語で話されましたが、中心はイエス・キリストでした。
- ・皆さん。聖霊は絶えず主を崇め、証しするお方です。聖書は次のように述べています。
「御霊はわたしの栄光を現わします。わたしのものを受けて、あなたがたに知らせるからです。」 ヨハネ 16:14
「聖霊はわたしの栄光を現わします。」とあります。
- ・それは多くの言語による証にもかかわらず、キリストによる一致が与えられた。これはバベルにおいて、言葉が乱されたのとは対照的でした。(創世記11:1-9)神がお働きくださる時、そこには一致があるのです。
- ・現代も同じように、聖霊は働いてくださいます。それは神のみことば(聖書)とともに、私たちの内側に働いてくださるのです。神のみことばが語られる時、聖霊がともにお語りくださるのです。ある時は、説教を通して、ある時は他の人との交わりの中で、ある時は聖書を開き静かに読んでいる時、聖霊はお語りくださいます。ワンパターンではなく、聖霊は多様性をもって私たちにお語りくださるお方です。

3). 聖霊の語りかけに対し**の応答(反応)があった**

ここに「驚き」という言葉は、3回出てきます。(6, 7, 12節)

- ① 第一の応答は、驚きの伴った熱心な探求でした。
彼らは驚きを覚つつも、「**いったいこれはどうしたことか**」(2:12)と言いました。この次にペテロの説教がきますが、それに対して心の準備ができていました。
 - ② 第二の応答は、嘲笑の伴うものでした。
2:13 しかし、ほかに「彼らは甘いぶどう酒に酔っているのだ。」と言ってあざける者たちもいた。
- ・これは冗談であったのか、あるいは真実な求めを拒絶するものであったか 分りませんが、弟子達を泥酔者と非難しました。きっと群衆の中には、キリストの十字架に加担した人々は、キリストが甦られたという言葉聞きたくなかったのでしょう。
 - ・神の聖霊が下った時、人々は2つに分かれました。
 - ① 心の準備ができて、神のみことばを聞く準備ができた人

② 心を閉ざし、懐疑心が働いて人

- ・皆さん。弟子たちはぶどう酒ではなく、聖霊によっていたのです。一般的に、人は酒に酔うと心が大(大胆)きくなり、生まれつきの醜い本性を露骨に表すことがあります。しかし聖霊に満たされた人は、神のために大胆になり、神の栄光のために生きようになります。聖霊の働きがあるところ
⇒人間は選択を迫られます。
- ・御霊の光の内を歩むのか、あるいは闇の世界を歩むかです。私たちは如何でしょうか・・・？光の道を歩みたいものです。聖霊が降臨されたことに、私たちはどのような応答をするのでしょうか。
- ・聖霊のご介入(お働き)に心を開いているでしょうか。あるいは、懐疑心を持つ者でしょうか。どちらを選択するかによって、人生が分かれてしまいます。神は、私たちに聖霊を通しご自身の奥義(神の国の幸い)を、さらに知らせたいと願っておられます。聖霊(parakretos:パラクレートス)は、「もう一人の助け主」です。
- ・イエスは言われました。 **ヨハネ福音書 14 章**
14:16 わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。

私たちは、聖霊である「もうひとりの助け主」の助けをいただくものです。

- ・聖霊の助けを受ける人について、聖書は次のように述べています。
「私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。」2コリント 3:18
- ・自力ではなく、聖霊の助けによって、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられていく生涯です。なんとという幸いではありませんか。

まとめ

テーマ:「一つ所に集まる祝福」

—その中心は—

- ・今日、私たちはペンテコステを迎えています。聖霊降臨は神の約束でした。それは懐疑心をもって人生を歩むのではなく、神の奥義をさらに覚える幸いな人生を送るためです。聖霊降臨(ペンテコステ)、私たちはどのように受けとめているでしょうか。
- ・そして、今日教えられた点をまとめてみましょう。
 1. 聖霊(もう一人の助け主)が共にいる
 2. 聖霊とともに歩む幸いな人生

* God bless you !